別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度第3回枚方市廃棄物減量等推進審議会	
開 催 日 時	令和4年8月30日（火）	10時00分から 11時30分まで
開 催 場 所	枚方市役所第3分館（旧市民会館）3階 第4会議室	
出 席 者	橋本 征二 会長 早川 孝 副会長 中島 要 副会長 田村 有香 委員 富田 須美子 委員 中野 俊彦 委員 濱田 慶子 委員 奥西 喜代美 委員 小野 克史 委員 田 元浩 委員 野々上 智規 委員	
欠 席 者	石川 聡子 委員 大下 和徹 委員 稲森 郁子 委員 松井 太 委員 茨木 壽子 委員 藤下 秀次 委員	
案 件 名	1. 事業系ごみ処理手数料の見直しについて（意見具申案） 2. スマートライフ推進基金の充実について 3. その他	
提出された資料等の名	資料1 事業系ごみ処理手数料の見直しについて（意見具申案） 資料2 枚方市スマートライフ推進基金の充実について 参考資料 他市の基金活用事例	
決 定 事 項	・事務局の作成した事業系ごみ処理手数料の見直しについての意見具申案を確認し、一部追記修正することとした。 ・事務局が修正した意見具申案は、会長が確認を行った上で、正式な意見具申として市へ提出することとした。 ・スマートライフ推進基金の充実に向けて、基金の活用事業案の提案を行った。	
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表	
傍 聴 者 の 数	0人	

所 管 部 署 (事 務 局)	環境部 循環型社会推進室 循環型社会推進課
審 議 内 容	
橋本会長： 定刻になりましたので、ただいまから令和4年度第3回廃棄物減量等推進審議会を開催させていただきます。	
それでは、事務局から委員の出席状況の報告をお願いします。	
事務局： 本日の委員の出席状況は、17名中11名の出席をいただいておりますので、委員の過半数に達しておりますので、会議は成立していることをご報告させていただきます。	
橋本会長： ありがとうございます。 続きまして、本日の審議会の傍聴希望者の確認をさせていただきたいと思えます。傍聴希望者はおられますでしょうか。	
事務局： 傍聴希望者はおられません。	
橋本会長： わかりました、ありがとうございます。 次に、議事に入ります前に、資料の確認をお願いします。	
事務局： 資料の確認をさせていただきます。	
(事務局による資料の確認)	
橋本会長： 次に、新型コロナウイルス感染症対策として、事務局からお願いがあるとのことですので、説明をお願いします。	
事務局： 新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、本日の審議会開催にあたりましては、マスクのご着用をいただく関係から、マイクを使用させていただきます。マイクの受け渡しの際は、その都度、職員が消毒させていただきますので、ご了承いただきますよう、よろしく申し上げます。	
橋本会長： よろしく申し上げます。 それでは、議事に入らせていただきます。	
案件1. 事業系ごみ処理手数料の見直しについて	
橋本会長： 「案件1. 事業系ごみ処理手数料の見直しについて（意見具申案）」ということで、これまでの審議の中で皆様からいただいたご意見を踏まえまして、事務局のほうで意見具申案をまとめていただいておりますので、ご説明をよろしく申し上げます。	
事務局： それでは、事務局より説明させていただきます。	
(資料1に基づき説明)	

橋本会長： ありがとうございます。

これまでご議論いただいた内容については、主に3ページ「8. 廃棄物減量等推進審議会における各委員からの意見」のところでまとめていただいています。

5ページ「9. おわりに」では、事業系ごみ手数料の見直しにあたっての改定時期、あるいはさらに経過措置期間などについて言及するような形で、しっかり排出事業者様の理解を得るようについて記載いただいております。

ご説明に関して、ご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

田委員： これから9月議会を経て、11月頃にはこの内容に沿った流れになっていくかと思いますが、今回の料金改定のお話にあたって、各団体、事業者の代表の方々の意見があまりないことが私は少し気になっております。私どもは廃棄物の収集運搬業をしております、事業系ごみ処理手数料に関して、言わば、市と排出事業者の仲介の仕事をしているわけです。実際、値上げになると負担がかかるのは排出事業者なんですよね。私どもは排出事業者ではないので、本来、私がいろんな話をするということ自体がちょっと僭越な話だとは逆に思うんです。本来的には、やはり排出事業者の方々が値上げに対してどうなのかということ、私はもっと議論をしっかりとさせていただきたい、意見を出してさせていただきたい。各団体の会員の皆様の直接的な利害といいますか、本当に経営が厳しくなったり、経費がどんどんかさんでいくということに直結する話かと思えます。事業者の経費がどんどん上がって、商品の値上げとなると、やはり市民の生活にも影響はあると思われるので、活発な議論がなされないかなと、私はここ何回かの審議会の流れで強く感じております。

気になる部分といいますか、手数料の適正化ということなんですけれども、かねてより申し上げておりますが、何をもって適正化なのかは正直、はっきりよく分からない部分がありまして、処理原価に基づいてということであれば、なぜ処理原価どおりの値段に設定しないのかと思ったりもします。過去からごみ処理手数料はごみ処理原価よりも安く、ごみ処理費用として足りない部分は税金で賄って来ていると思います。市民派の議員の先生方が、市民の税金をなぜ事業者のごみ処理費用に使うのか、ということをよくおっしゃいました。それはそうではなくて、税金について細かく何をどこに使っているかというのは区分けができないと思うので、事業者が払っている税金で賄っているともいえるというのが私の考えです。実態として税金で賄っているわけですから、そのことが間違っているのかということをもまずはっきりしていただかないと、ごみ処理原価を全部負担してもらわないといけないという話にはならないんじゃないかということも思います。

それとあともう一つは、私ども、ひらかた環境事業協同組合の組合員からの意見もありまして、例えば京田辺との共同の運用ということで、京田辺市のごみ処理手数料が150円/10kgで、枚方市は90円/10kgということで、これを合わせないといけないという話もあるんですけど、例えば、枚方市の東部清掃工場に事業

系ごみを全部搬入すれば、京田辺市へ搬入する必要はないので、運用次第では別に二重の金額であってもおかしくはないのかなという、その可能性もないのかなという部分も合わせてちょっと検討いただきたいという意見でございます。

橋本会長： ありがとうございます。

1点目として、排出事業者の関係団体又は排出事業者である事業者の方からのご意見は、実際、あまり承っていないところかと思っておりますので、もう少しご意見いただければありがたいと思います。

2点目は、処理原価と現状の処理料金との間に格差がある中でどうしていくかということかとは思っています。

ひらかた環境事業協同組合の方から、手数料が二重になることの可否についてのご意見もありましたが、それについてはどうでしょうか。事務局のほうから、何かありますか。また、事業者の方からもご意見があれば、いただきたい思います。

事務局： 手数料につきましては田委員からもありましたように、現状、京田辺市は150円で、枚方市は90円となっている状況がございます。そうした中で、東部清掃工場のほうで事業系ごみを燃やせば、二重の手数料でもいいのではないかというご意見もありましたけれども、最終的な新しい清掃工場ができましたら、東部清掃工場と一体的に運営をさせていただくということになってますので、そこで二重の手数料を設定するのは、少し難しいのかなと感じているところです。

ごみ処理原価との乖離についてですが、何をもって適正化ということなんですけれども、やはり市といたしましては、事業系ごみ処理手数料をごみ処理原価に一致したものとなるようにするということが適正であると考えていますので、それに向けて取り組みを順次進めていくということでご理解をいただきたいと思っております。

橋本会長： ありがとうございます。

事務局の説明を受けて、田委員から何かありますか。

田委員： 家庭系ごみについては、例えばその一体的な運用で問題はないと思うんですが、事業系ごみについては、枚方市は枚方市の、例えば東部清掃工場に搬入して、京田辺市は京田辺市の処理施設、もしくは共同処理施設に搬入してもらったら、区分けはできるんじゃないかなと思います。京田辺市の許可業者が枚方市に搬入することはないと思いますので、そういう段取りであれば、完全に許認可の行政が違うわけですから、そんなに難しいことかなと思いました。

ごみ処理原価の部分では、前回も説明があったように、市町村によって計算方法も違いますし、かかる費用も違うことから、広範な地域で同じような値段を選ぶことは難しいと思いますし、運用状況も違うので、当然値段も違ってくるかと思えます。

他の国では廃棄物というと全部廃棄物で、一般廃棄物・産業廃棄物といった区分けをしている国は多分、私の認識ではほとんどないように思うんです。そういう日本の独特な形態ではあると思うんですけど、戦後かなり遡ったら、一般廃棄

物、いわゆる生ごみとか腐るものは病気が発生する等の関係で、最初の法律は汚物清掃法でしたか、そこから規制が始まって、その後、市民のごみだけじゃなくて、事業者のごみも適正に処理する必要があるということで、今のごみの区分の形態になっていき、焼却という形で処理するという流れの中で独特な形になってきているのかと思います。そういう経緯を考えると、産業廃棄物のように勝手にやってくださいというわけではないので、今の廃棄物処理法の流れの中で、原価を負担すべきだということは、私としては反対をしてきました。平成13年度の答申の内容では、原価を負担することが本来であるということにはなっておりますけれども、じゃあそれが絶対的にもう変えることのできないものかという、そうではないと思います。

料金改定の話はいつも、もやもやが残ったまま進められているので、もっと根本的な部分で、これはこうだからこうですよという、分かりやすい説明をできないのかなという、難しいというのは重々分かった上での話なんですけど、それはもっとやはり議論なり研究なりしていく必要があると思います。

事業者団体の代表の方々に対して申し上げたいのが、私どもひらかた環境事業協同組合は、市の手数料が上がると、間違いなく収集料金の値段を改定します。加えて、現在、本当にガソリン代、車両代も高くなっていて、パッカー車にあたっては、日野自動車は今度出荷停止とかニュースで出てましたけど、もう車を欲しくても買えない、高くなっている以上に買えないというような状況もあります。それ以外にも高騰している部分もありますので、かなりの大幅な収集料金の改定ということが必要になってくると思っています。その辺の事情を排出事業者さまにもご理解いただくために、もちろん行政さまのほうでもいろいろ検討していただいているのは知っていますけども、それ以上にやはり徹底して周知というか、ご理解をいただけるように手前勝手なお願いで申し訳ありませんがご協力をいただきたいと考えています。

橋本会長： ちょうど間に挟まれる感じになるかと思いますが、非常にご苦勞をお掛けする可能性が高いんですけども。ご意見いただき、ありがとうございます。

事業者の方からはいかがですか。

中島委員： これまでの審議会でもお話しさせていただいたかと思いますが、今新型コロナウイルス感染症により経済社会が大きな影響を受けていて、またウクライナの戦争で燃料等価格が上がっていますので、手数料を上げることについては、一貫して反対の立場でございます。

また、値上げをされるにしても、先ほど田委員からお話しがあったように、排出事業者さんへの十分な説明を重ね重ねお願いしたいと思います。企業の立地といったところで、ごみ処理手数料の部分だけを判断して、枚方市で商売されてる方っていうのはあまりいないと思いますけれども、働きやすいとか経営しやすい環境でということも事業者さんは願っていますので、その辺はぜひお願いしたいなと思います。

また、インフラを担う収集運搬業者さんへの十分な配慮についても重ね重ねお
願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

橋本会長： ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

今回、意見具申案として示していただいておりますが、この文言についての修正
についてのご意見はありますでしょうか。今、いただいたようなご意見を踏まえ
てということはあると思いますけど。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

度々ご意見をいただきまして、値上げに対しての配慮ということを十分に行っ
ていただいて、排出事業者への十分な説明ということもありますし、収集運搬業
者さんへの負担軽減につながるように、排出事業者さんにしっかりと理解を求め
ていくことについて、丁寧に対応をお願いしたいというのが大卒の意見かなとい
うふうに思いましたが、いかがでしょうか。

田村委員： 手数料を値上げするということについて、根拠もありますし、京田辺市と合せ
ないといけないということもそれなりの説得力があると思いますが、手数料を値
上げすると、税金でまかなわれている処理料が少し浮くことになるので、どうい
うものに使われる可能性があるのかというかような、浮いた分の使い先が一言
あってもいいのかなと思ったんですが、そのあたりはいかがでしょう。

橋本会長： 事務局からいかがでしょうか。次の議題とも少し関連する部分もあるかもしれ
ませんが。

事務局： これまでごみ処理費用に充てられていた税金の値上げ後の用途を、意見具申の中
に織り込むということによろしいでしょうか。

田村委員： 意見具申案を読んでみて、そのことの記載があれば、より内容が把握できると
感じました。

事務局： 我々、ごみの減量に携わってる部署では環境学習をよく行ってまして、ごみ
という、いわゆる不要な捨てられたものに対して莫大な費用がかかっている。や
はり、そういうごみを減らすことによって、その費用が削減できれば福祉であつ
たり、他事業に使えるというようなことを、小学4年生の環境学習で説明をして
います。おっしゃるように、その分を違う、例えばコロナで疲弊されてる事業者
に対するという、これは、市全体で考えることなんですけども、そういった違う
分野に活用できるということは、私どももそういう思いを持って取り組んでい
るところではございますので、意見具申案の中に記載するというのであれば、
書き方を含めて検討させていただきたいと思います。

田村委員： よろしくをお願いします。

橋本会長： なかなか具体的な用途を言うのは難しいのかもしれませんが。

事務局： そうですね。考え方としては、記載は可能なのかなと思うんですけども、
ちょっと具体的にどこに使われるとかは、この場で決めるものでもないですし、

決められるものでもないので、一度、事務局の方で検討させていただくということで、よろしくお願いします。

橋本会長： ありがとうございます。その点は少し検討をするということで。そのほか、文言について、ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、先ほどご指摘いただいた点を加筆させていただくことを検討させていただいて、私のほうで預かりでも大丈夫でしょうか。

(異議なし)

それでは、その点について、事務局と検討をさせていただいて、内容については、私のほうで確認の上、最終の案とさせていただければと思います。

委員の皆さまからご意見・ご指摘いただいた事業者様への配慮、事業者様の理解の促進のといったところについて、くれぐれも留意して検討いただきたいというふうに考えていますので、よろしくお願いいたします。

最終版の意見具申につきましては、私のほうから後日、市のほうへ提出させていただきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

ご検討、どうもありがとうございました。

それでは、この案件については以上とさせていただきたいと思います。

案件2. スマートライフ推進基金の充実について

橋本会長： 続きまして、「案件2. スマートライフ推進基金の充実について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

事務局： それでは、事務局より説明させていただきます。

(資料2に基づき説明)

橋本会長： ありがとうございます。

条例の一部改正の内容というのは、基金の主要目的の中に環境保全、循環型、脱炭素といった、現在の廃棄物に関することだけではない対策を追加することです。よろしいですかね。

現状で1億4,000万円ほど基金が積み立てられているということで、この用途を拡大していくというお話になっています。

先ほどの議論とも絡めると、事業者さんの廃棄物対策の支援でありますとか、あるいはEVの収集車みたいなものを購入するとか、何かそういう用途ってというのはあるかなと思いましたが、いかがでしょうか。

中野委員： 去年、今年と、皆さんのご意見をいろいろ聞かせていただいておりますが、このスマートライフ推進基金というものを今、初めて知りました。私はエコ・スマイルひらかたの代表として、生ごみのEMによる堆肥化を普及啓発するという取り組みを、約20年やってきています。市のほうのご指導をいただきながら、広報でモニターを募集して、決定したモニター家庭へ堆肥化にあたっての資材配布やフォローアップをして、生ごみを減らすという取り組みです。まさしくこのスマートライフの条件に合うような、循環型の問題に、我々としては取り組んでいるという認識をしています。

資料裏面を見ると、他中核市の基金の活用事例では、生ごみの堆肥化事業あるいは生ごみの処理機購入補助金が挙げられていますが、枚方市では生ごみの堆肥化事業について基金の活用は検討されていないのでしょうか。

我々としては、市からの指導で堆肥化の取り組みを色々行っています。モニター家庭を通じて、市民の皆さんと直に接しながら、生ごみを減らすことを呼びかけ、減らすための方法を伝えています。

広報でのモニター募集は、これまで枚方市のほうで2か月に一回記事を掲載していただいていたと思います。今年は、コロナ禍ということもあるかもしれませんが、現状、7月にモニター募集記事を掲載されていましたが、当初の予定よりは減少しています。去年も、コロナの影響で広報での募集が減っていましたので、10月から年末にかけて、我々のほうでモニターの募集を行いました。そうすることによって、年度予定をクリアしたという実績があります。生ごみを堆肥化によって減らし、堆肥を畑に入れることで循環型の取り組みとなります。私も畑を持っていますから、実際に畑に堆肥を利用することで生ごみを減らしています。

どうも昨今の市のお話を聞きますと、こういった取り組みは、他市では、もうあまりやられていないという話もあり、枚方市の方では生ごみの堆肥化を推進することから一歩引いたのかなと感じています。我々としましては、取り組みを何とか継続していきたい、さらに言えばもっともっと増やしていきたいと思っています。微力ですけれども、あるいは微量ですけれども、啓発冊子を配るということ以上に、生ごみを減らすことに繋がり、市の行政に寄与できるのではないかと、こういうスタンスで取り組んでいます。今年はそういうことで、この家庭から出る生ごみを減らすということを、市としてはどう考えておられるのかなと、ちょっとある意味では寂しいような感じもしてはるんですけども。

各家庭で生ごみの堆肥化を徹底することによって、確実に焼却ごみが減ることになりますので、堆肥化の取り組みはまさしく、ここに書いてあるスマートライフ推進基金の目的に合致するのではないかと思います。ですので、市ももう少し本腰を入れた生ごみの堆肥化の取り組みを、ぜひともお願いしたいと思います。

この審議会においてもご認識いただき、皆さまの持っている情報によって、生ごみの堆肥化をさらに進め、生ごみを減らすことで、焼却ごみが減らしていくということが、我々の思いです。

また、我々としましては、生ごみ堆肥を利用した畑で無農薬野菜を作るということを原点でやっており、そうして作った野菜のおいしさをPRしていきたいと考えています。

橋本会長： ありがとうございます。

事務局からお答えいただこうかと思いますが、その前に、今回、この基金の用途を少し拡張して、もっと色々なことへ使っていこうということなんですが、そういう観点で、何かこういう支援があると良いということはあるでしょうか。

中野委員： そうですね。モニター事業については、我々が市から委託を受けて行っています。今年からは、我々と市の役割分担の部分に変更があり、市の方で堆肥化に必要な備品の購入やPRを行っていくこととなっております。我々としましては、せめて従来どおりEMバケツ 20 件、コンポスト 20 件のモニター家庭への貸与を1年間の目標として、クリアしたいと考えています。そのためにも、さらなる広報でのモニター募集やPRなどを、この基金を使うかどうかというのは別にして、市のご対応をよろしくお願ひしたいと思っております。

橋本会長： ありがとうございます。

市のほうから何かありますか。

事務局： ごみ減量を進めていくにあたって、生ごみの減量という部分も重要なことだと、市としても考えております。その中で生ごみの堆肥化を推進していただいているということで、実際、ごみの重さとしてはすごい量にはならないとは思いますが、やはり生ごみの堆肥化の推進ということで市民啓発していただくことで、一つのごみ減量のきっかけということで、そういった役割も担っていただいていると思いますので、市としても生ごみの堆肥化の取り組みについて支援できるところは支援していきたいと考えているところです。

なお、スマートライフ推進基金の用途としましては、経常的に継続していく事業に充てるというよりも、集中的に啓発が必要なものや、期間を定めて取り組むべきことで、この基金の活用を図るところではございます。生ごみの堆肥化については、経常的にボランティアを行っていただいているということはよく承知しておりますけれども、何か集中的に市民啓発が行えるような取り組みの中で基金の活用を図ることについては、また担当部署としても検討していきたいと思っております。

早川委員： 他市の活用事例や枚方市の過去の取り組みを見てもないので、実現が難しいと思われる提案にはなりますが、福祉・高齢者と連携して何かできないかなというアイデアです。と言いますのも、認知症の方が今すごく増えています。認知症の方のごみ出しは非常に乱雑です。仕方がないんですけど、曜日が分かっておられない方もいますし、ごみの中身も滅茶苦茶です。使えるお醤油のパックを満杯入ったまま捨てるとかですね。調味料もいっぱいに入ったまま、ごみに出されています。そういったものが、ごみ袋からあふれたり、染み出してくる。そうなるのカラスも集まりやすくなってしまっているので、地域の人が結局、掃除しているという状況です。

また、この間、1週間ほど6時半から10時半まで、私と自治会役員と班長で不法投棄のパトロールも兼ねてごみステーションの見回りを行いました。そうすると認知症の方がごみを持って来られて、プラの日でしたが、半分、生ごみが入ったごみを出されていました。了解をもらって、それを開けて、プラごみだけを取り出して、一般ごみだけ入った袋の方は木曜日が収集日なのでまた持ってきてくださいと、その方を説得して帰ってもらいました。その木曜日に、家族の方が来られたので、その状況を説明して、改善をお願いしましたが、「試みますが頑固で言うこと聞いてくれないので、出勤前にごみのチェックはしますが、その後に多分入れると思いますよ。」ということを言われて、どうしようもないなと思いましたが、こういうケースが、これからどんどん増えてくると思うんです。

そうしたときに、環境部だけでは対応することはできないので、健康福祉部署と協力して何か改善する事業ができないかなと思いました。実現には何年もかかるかもしれませんが、これからそういったごみがどんどん増えていくと、当然、そのごみは収集されずに置いていかれます。そういった状況のステーションでは、不法投棄の増加を招くこととなります。

我々、地域の間人も取り組まなければいけません、見回るステーションの数が少ないときは対応もできますが、増えてくると対応し切れない部分があります。家の前や、道路上にネットを置いている小さなごみステーションでしたら我々でも対応できますが、開発に伴って大きな定点のごみステーションがいくつかできましたが、そういったところは難しいです。また、そういうステーションは大体、不法投棄が多いんです。収集できないごみが置いていかれているという状況が不法投棄の増加の理由になるので、だんだん地域環境も悪化していきます。先ほど1週間見回りをしたと言いましたけれども、そのステーションには、土のう袋に入ったガラスやペットのゲージといった不法投棄がいっぱいあったので、業者をお願いして全部回収してもらいました。

このような、見回りというのは一つの例なんですけれども、何か環境部だけではなく、健康福祉部署とも協力して、認知症の方のごみ出しに対して、何かできる事業はないのかなということです。これはおそらく、すぐに答えが出せる問題ではないと思いますが、今でもそういう認知の人が増えています。あと何年かたったらもっと増えると思います。他部署との協議となると、そこからまた1年、2年かかると思いますので、今からでもちょっとずつ考えて、その取り組みにあたって、この基金を使えないのかなと思いましたので、提案させていただきました。

橋本会長： ありがとうございます。

現状は福祉部署等と連携してごみ出し支援等、何か取り組みはやられていないのでしょうか。

事務局： 連携してということではないですけれども、「ふれあいサポート収集」という高齢者のごみ出し支援の取り組みは行っています。いただいた意見の取り組みにつきましては、今後、スマートライフ推進基金を活用できるかも含めて、部内で

検討を行いたいと思います。

橋本会長： 現段階としては、アイデアとして色々な使い道の案を出していただく段階で、その中からどう実施していくかは、別の議論としたいと思います。

田 委 員： 他市の基金活用事例を見て、私はイチ押しといいですか、公用車を電気自動車に入れ替えるのはどうでしょう。イメージもすごくいいと思います。枚方市は昔から交通量が多くて、私が子供の頃覚えてるのは、空気が霞んでいて、しばらく外に出ていると、鼻の穴が少し黒くなるような、そういった時期がありました。今はすっかり排ガスがきれいになったおかげでそういうことはないんですけど、2035年の国の自動車電動化目標もありますし、二酸化炭素の排出量の削減に向けて、先駆けて電気自動車もしくは水素燃料自動車をどんどん公用車として取り入れれば、市の宣伝にもなると思います。

それと、市民や市内事業者に対する市独自の電気自動車購入補助金があれば、さらに電気自動車の普及が進むと思います。パッカー車のハイブリッド車や電気自動車も今後出てくると思いますので、そういったところにも補助等ができれば環境にもよいと思います。

また、他市の基金活用事例として、「次世代自動車充電インフラ設備運用費」が資料にありますけど、当社でも電気自動車を1台保有していますが、自宅と会社に充電設備があり、他の場所で充電することはほとんどありません。ですので、充電インフラ設備というのは、ガソリンスタンドほど必要ではないと思っています。

橋本会長： ありがとうございます。

奥西委員： 公民各団体で一生懸命、ごみの減量に努力されていることは、よく分かるんですけども、市の取り組みの小学校4年生を対象にした、ごみカレンダーの配布について、小学校4年生の父兄の方にお話を伺う機会があったのですが、お家には既にカレンダーはありますので、児童が持ち帰ったごみカレンダーは要らないから捨てたということを知りました。そういう生の意見をいただいて、何かごみを減らすために、お金をかけてごみとなるものを印刷していることはすごく無駄で、本末転倒だと思いました。

今、学校では小学校1年生から、タブレットを1人1台持っているらしいです。そのタブレットで見れるアプリとして、ごみカレンダーを導入することはできないでしょうか。他市の基金活用事例を見ると、アプリの導入というものもありますし、枚方市でも紙ベースではなくて、アプリ版カレンダーみたいなものを作成して、子供の学習のときに使えないかなというのが提案です。

事 務 局： 他市の事例にあります、ごみ分別アプリにつきましては、枚方市もすでに「さんあ〜る」というアプリを導入しています。これは、収集日をカレンダー形式でも確認していただけるようにはなっています。

ごみカレンダーにつきましては、そもそも作成した意味というのが、高齢者等

のパソコンやスマートフォンを見ない方のために、ごみ収集日等の情報を知ることのできる媒体が必要であるという判断をしまして、ごみの減量啓発の内容も織り込んだカレンダーを作成させていただいたものです。現時点では、今後も紙ベースの媒体もニーズはあるということで取り組んでいるところです。

ご意見にありましたように、小学生は1人1台タブレットを持ち帰って、使用しております。それに合わせまして、文科省のほうも、教科書のデジタル化を進めていくということで、枚方市もまずは「わたしたちのまち枚方」という、副読本系からデジタル化を進めているところです。デジタル化は一遍には、なかなか進まないところがあるかもしれませんが、今後、連絡物もタブレットを通じて、紙で持って帰るということではなしに、データで送らせていただくということに変わっていております。順次変わっていておりますので、今おっしゃっていただいたようなことについては、もう実現できてるのか、近々実現するのかというような時期かなと思います。

奥西委員： ありがとうございます。

橋本会長： ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

田村委員： 先ほどの中野委員のご指摘にも関連してのことなんですが、生ごみの堆肥化に関しまして、他自治体でも堆肥を作るのはいいけど、その後どうやって使うのかというところを割と困っているところもあると思います。ごみを減らすということもうれしいけど、おいしい野菜に生まれ変わるっていう実感というものが、堆肥化に取り組むときには非常に大きなモチベーションにつながると思います。枚方市の場合、生産地と消費地、位置が近いところに設定できるというメリットもありますし、地産地消さらには食育の観点を盛り込んだ生ごみの堆肥化促進の取り組みとして、何かイベント・啓発ができないかなという提案です。

橋本会長： ありがとうございます。この意見については、どうですか。

中野委員： ありがとうございます。

私の話をしますと、畑は40坪ほどあって、生ごみから作った堆肥を入れて色々なものを作っています。今の時期はかぼちゃなどです。畑の隣近所は住宅でして、農業って臭いも少しありますので、そういうこともあって、できた野菜などは隣近所の方に、プレゼントしています。それこそボランティアではないけど、そういった気持ちで、おいしい野菜ができることを伝えていくことに取り組んでいます。

おっしゃっていただいたように皆さんが畑を持っているわけではないですから、私どもはまず畑などの堆肥の利用先があるかを確認します。本来であれば、堆肥を受入れる施設があればいいんでしょうけど、今のところは各家庭、各個人で土を持って、あるいは畑を持っている人が対象になろうかと思っています。今は貸し農園を利用されている方も多くおられますので、そういうところへ入れてもらうというのも一つの手だし、利用先は色々あります。花でも、野菜でも、あ

るいは果実でも生ごみ堆肥は使えます。堆肥化モニターの方へ色々な堆肥の利用パターンをアドバイスし、トラブルにも対応しながらしっかりと循環させることに取り組んでいます。

橋本会長： ありがとうございます。我が家でも生ごみの堆肥化をしています。畑がないのでプランターで使っています。大規模に生ごみ堆肥化に取り組んだ場合、その利用先という問題がありますが、例えば、学校で農作物を育てたりということにつなげていくようなことができると面白いのかなと思いました。

そのほか、いかがでしょうか。

私から1点だけ、他市の活用事例で市民公募型のものがあって、市民団体等に事業を提案してもらい、その事業を評価し、良いものを採択して実施していくというようなことをやっている自治体さんもあります。評価する委員が必要になってきますが、他市の事例では、審議会委員の一部が担当してやってるところです。市民の活動の活性化にもつながると思いますので、また検討していただけると面白いかなと。

その他、よろしいでしょうか。

では、いただいた意見を参考にさせていただいて、事業の具体的な内容をまた検討いただければと思います。

案件3. その他

橋本会長： それでは、最後の案件で、「案件3. その他」について、事務局から何かありますでしょうか。

事務局： 事業系ごみ処理手数料の見直しにつきましては、本日の審議において、意見具申を後日、変更点を会長に確認していただき、市へ提出することとなりましたので、提出が済みましたら、委員の皆様へはその旨をお知らせさせていただきます。

次回の審議会につきましては、開催予定が決まり次第、委員の皆様にご連絡させていただきますので、お忙しい中恐縮ですが、引き続き御協力のほど、よろしくお願いいたします。

橋本会長： ありがとうございます。

本日の議事は以上となりますけれども、また皆さんから特になければこれで終わらせていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

本日はどうもありがとうございました。